

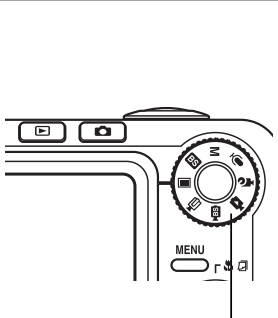








撮影する(基本編)









ここでは最も基本的な撮影方法について説明します。


基本的な撮影のしかた

撮影モードを設定する

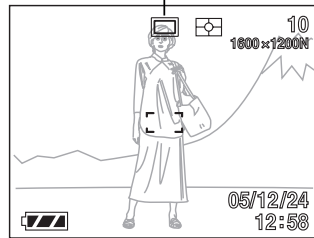
本機には8つの撮影モードがあります。撮影する前に【モードダイヤル】を回して、撮影したい被写体に合った撮影モードに設定してください。

 【モードダイヤル】		静止画モード
		ベストショットモード
		マニュアル露出モード
		ボイスレコードモード
		パストムービーモード
		ショートムービーモード
		ムービーベストショットモード
		ムービーモード

-  (静止画モード)
静止画を撮影するときに設定します。通常はこのモードに設定してお使いください。
-  (ベストショットモード)
簡単に綺麗な写真を撮りたいときに設定します。あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選び、煩わしい設定をカメラにまかせることができます(74ページ)。
-  (マニュアル露出モード)
絞り値、シャッター速度を自由に設定して撮影することができます(70ページ)。
-  (ボイスレコードモード)
音声のみ録音するときに設定します(91ページ)。
-  (パストムービーモード)
【シャッター】を押す約5秒前から動画を記録することができます。決定的瞬間の撮り逃しを防ぐことができます(85ページ)。
-  (ショートムービーモード)
【シャッター】を1回押して、その前後の数秒間の動画を記録することができます(83ページ)。
-  (ムービーベストショットモード)
簡単に綺麗な動画を撮影したいときに設定します。あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選び、煩わしい設定をカメラにまかせることができます(87ページ)。
-  (ムービーモード)
標準的な動画を撮影するときに設定します(83ページ)。

- 参考** •【モードダイヤル】を設定したい撮影モードに合わると、【液晶モニター】に撮影モードを示すアイコン(“”など)が表示されます。

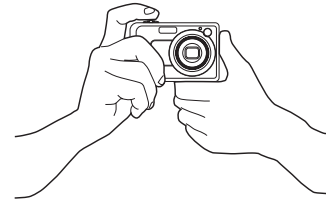
撮影モードを示すアイコン



カメラの正しい構えかた

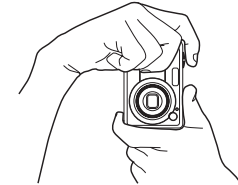
カメラは両手でしっかりと持って、撮影してください。片手で持つと、手ぶれを起こす恐れがあります。

- 横に持つ場合



両手でカメラをしっかり持ち、脇をしっかり締めてください。

- 縦に持つ場合



縦に持つ場合は、【レンズ】より【フラッシュ】が上にくるようにして、カメラをしっかり持ってください。

撮影する(基本編)

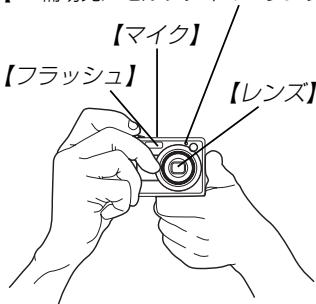
- 重要!** ● 指やストラップが、右記の部分にかからないように注意してください。

【AF補助光/セルフタイマーランプ】

【マイク】

【フラッシュ】

【レンズ】



- 参考** ● 【シャッター】を押し切った瞬間にカメラがぶれたり、オートフォーカス動作中(シャッター半押し時)にカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、【シャッター】を静かに押し、【シャッター】を押し切った瞬間にカメラが動かないようにしてください。特に暗い場所で撮影するときは、シャッター速度が遅くなるので、注意してください。

撮影する

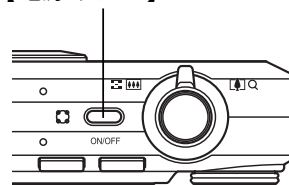
本機では被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度を自動的に調整します。撮影された画像は、順次内蔵フラッシュメモリーに保存されます。

- 市販のメモリーカード(SDメモリーカードまたはMMC<マルチメディアカード>)に保存することもできます(141ページ)。

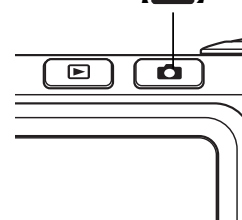
市販のメモリーカードを使用する場合は、あらかじめメモリーカードを入れて、メモリーカードのフォーマットを行ってください(143ページ)。

1. 【電源ボタン】または【】(REC)を押して、電源を入れます。

【電源ボタン】



【】



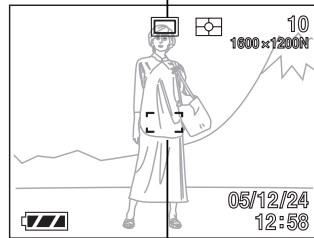
- 【液晶モニター】に画像が表示されます。
- RECモードになり、撮影できる状態になります。

- すでに電源が入っている状態で下記のようにPLAY(再生)モードになっている場合は、**【カメラ】**を押してREC(撮影)モードに切り替えてください。
 - 「ファイルがありません」と表示されている。
 - **【再生】**が**【液晶モニター】**の上部に表示されている。

2. **【モードダイヤル】**を**【静止画】**に合わせます。

- 静止画モードに設定すると、**【液晶モニター】**に**【静止画】**が表示されます。
- 設定のしかたは、「撮影モードを設定する」(42ページ)をご覧ください。

静止画モードのアイコン



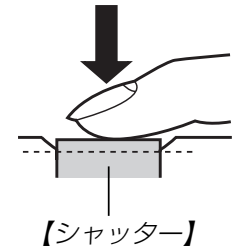
【フォーカスフレーム】

3. **【液晶モニター】**に表示されている**【フォーカスフレーム】**を被写体に合わせます。

- 撮影できる距離は、フォーカスモードによって異なります(60ページ)。
- **【ファインダー】**から被写体を見て撮影することもできます(49ページ)。
- **【ファインダー】**から被写体を見るときは**【DISP】**を押して、**【液晶モニター】**を消すことで、電力の消費を減らすことができます。

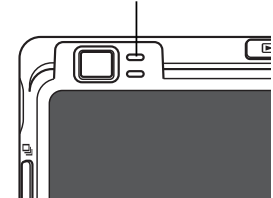
4. **【シャッター】**を半押しし、ピントを合わせます。

- **【シャッター】**を半押しすると、オートフォーカス機能により自動的にピントが合い、シャッター速度と絞り値が表示されます。
- ピントは**【フォーカスフレーム】**や緑の**【動作確認用ランプ】**の点灯のしかたで知ることができます。



【シャッター】

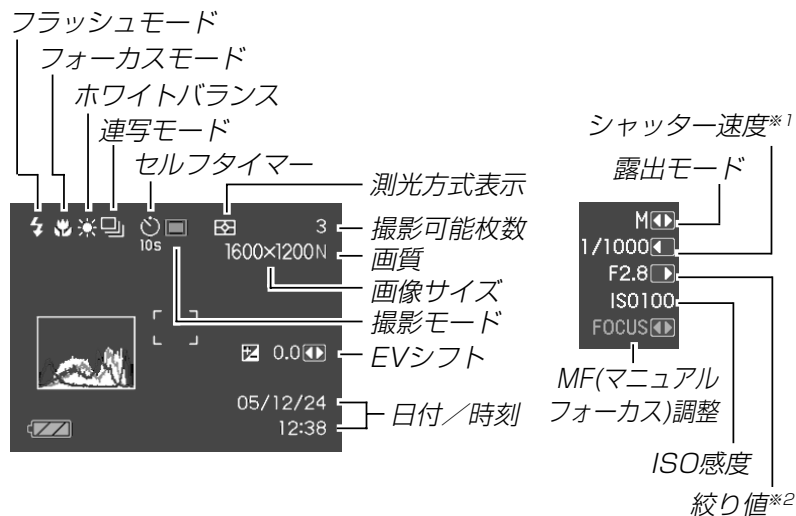
緑の**【動作確認用ランプ】**



状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

撮影する(基本編)

- 【液晶モニター】には様々な情報が表示されます。

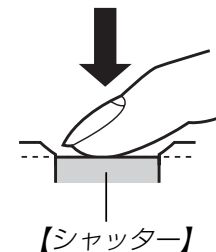


※1 レンズを通してCCDに当たる光の量を制限する機構(シャッター)の動作速度のことです。時間が長くなるほど光の量は増えます。

※2 レンズを通してCCDに当たる光の量を制限する機構(絞り)の開口部の大きさの値です。数値が大きくなるほど、光が通る開口部の大きさが狭くなります。

5. ピントが合っていることを確認して【シャッター】を全押しします。

- サイズ、画質によって撮影できる枚数が異なります(58、59、193ページ)。

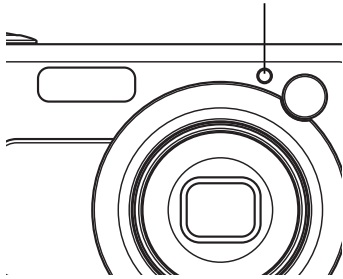


- 重要!**
- “撮影設定”の“クイックシャッター”を”入”に設定している場合(62ページ)、【シャッター】半押しによるオートフォーカスが完了する前に、【シャッター】を全押しすると、オートフォーカスが作動せずに撮影されます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

■ AF補助光について

暗い場所などで撮影しようとしたとき、ピントを合わせやすくするために、【AF補助光／セルフタイマーランプ】で自動的に補助光を発光します。

【AF補助光／セルフタイマーランプ】



なお、このAF補助光は発光する／しないを切り替えることができます。至近距離で人物などを撮影するときは、AF補助光は発光しないことをおすすめします。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“AF補助光”を選び、【▶】を押します。


4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入：AF補助光を発光します。

切：AF補助光を発光しません。

重要! • 【AF補助光／セルフタイマーランプ】を覗いたり、人の目に当てないように注意してください。

■ 撮影時のご注意

- 緑の【動作確認用ランプ】が点滅している間に【電池カバー】を開けたり、カメラをUSBクレードルにセットすることは、絶対にお止めください。今撮影した内容が記録されないばかりでなく、撮影済みの内容が破壊されたり、カメラが正常に動作しなくなる恐れがあります。
- メモリーカードに記録中は、メモリーカードを抜かないでください。
- 蛍光灯照明の室内で撮影する場合、本機は蛍光灯のフリッカー(人の目では感じられない、ごく微妙なちらつき)を感知してしまい、撮影するタイミングによって、微妙に撮影画像の明るさや色合いが変わる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合(99ページ)は、被写体の明るさに応じて感度が自動的に変化します。被写体が暗いと画像にノイズがのる場合があります。
- ISO感度が“オート”の場合(99ページ)は、被写体が暗いときに感度を上げてシャッタースピードを速くするようにしていますが、フラッシュの発光方法(52ページ)が (発光禁止)のときには手ぶれに注意してください。
- 不要な光がレンズに当たる場合は、手で遮光してから撮影してください。

■ オートフォーカスのご注意

- 次のような被写体に対しては、ピントが合わないことや正確でないことがあります。
 - － 階調のない壁などコントラストが少ない被写体
 - － 強い逆光のもとにある被写体
 - － 明るく光っている被写体
 - － ブラインドなど、水平方向に繰り返しパターンのある被写体
 - － カメラからの距離が異なる被写体がいくつもあるとき
 - － 暗い場所にある被写体
 - － 手ぶれをしているとき
 - － 動きの速い被写体
 - － 撮影範囲外の被写体
- 緑の【動作確認用ランプ】が点灯していたり、【フォーカスフレーム】が緑で表示されていてもピントが正しく合わない場合があります。
- ピントが合わない場合は、フォーカスロック(66ページ)やマニュアルフォーカス(65ページ)をご利用ください。

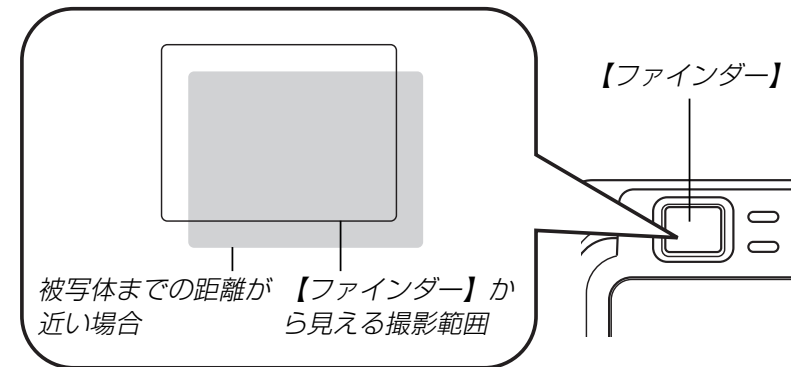
■ 撮影時の画面のご注意

- 撮影時、【液晶モニター】に表示される被写体の画像は、フレーム確認のための簡易画像です。撮影した内容は、選択した画質で記録されており、出力画素数は確保されています。メモリーには精細な画像で記録されています。
- 被写体の明るさにより、撮影時の【液晶モニター】の表示速度が遅くなったり、ノイズが出る場合があります。
- 極端に明るい被写体を撮影すると、【液晶モニター】上の画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象といいます)。これはCCD特有の現象で、故障ではありません。なお、この帯は静止画には記録されませんが、動画(81ページ)にはそのまま記録されますので、ご注意ください。

ファインダーを使って撮影する

電池の消費を抑えるために【液晶モニター】をオフ(27ページ)にし、【ファインダー】を使って撮影することができます。暗い場所での撮影など、【液晶モニター】が見つらいときに【ファインダー】を使うと便利です。

- 重要!** • 【ファインダー】から見える撮影範囲は約1m以上離れた被写体を撮影した場合の範囲を表します。被写体の距離が近い場合、視差の関係で実際に写る範囲が異なります。



- マクロモードやマニュアルフォーカスモードでは、【液晶モニター】をファインダーとして使用してください。【液晶モニター】は視差の問題がないため、記録される画像が正しく表示されます。

ズームを使って撮影する

本機のズームには、光学ズームとデジタルズームの2種類があります。


光学ズーム


レンズの焦点距離を変えて撮影することができます。ズームの倍率は次の通りです。

倍率：1～3倍

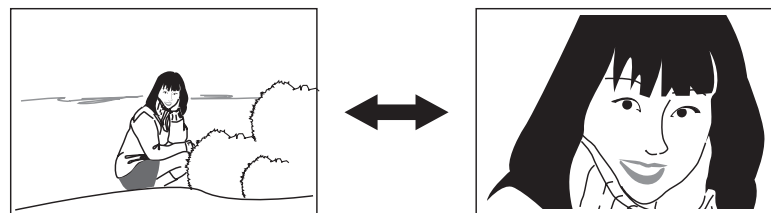
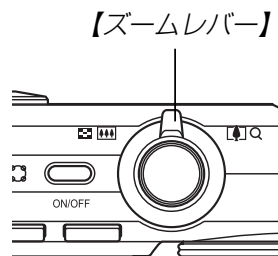
1. RECモードにします。

2. 【ズームレバー】をスライドさせて、ズームの倍率を変えます。

 (広角)：広角になります。

 (望遠)：望遠になります。

- 【ズームレバー】をいっぱいまでスライドさせると、より高速にズーム倍率を変えることができます。



広角

望遠

3. 【シャッター】を押して撮影します。

- 参考**
- 光学ズームの倍率により、レンズの絞りの値も変わります。
 - 望遠で撮影するときは、手ぶれ防止のため、三脚の使用をおすすめします。
 - マクロ(接写)／マニュアルフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に撮影可能な距離の範囲が表示されます(63、65ページ)。
 - 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。【シャッター】を押す前であれば、光学ズームは使用できます(81ページ)。

デジタルズーム

光学ズームが最も望遠になった(3倍)状態から、さらに画面の中央を拡大して撮影することができます。デジタルズームを使ったときのズームの倍率は次の通りです。

倍率：3～24倍(光学ズーム併用)

重要! ● デジタルズームを使ってズーム撮影すると、画面の中央をデジタル処理で拡大するため、光学ズームと異なり画像は粗くなります。

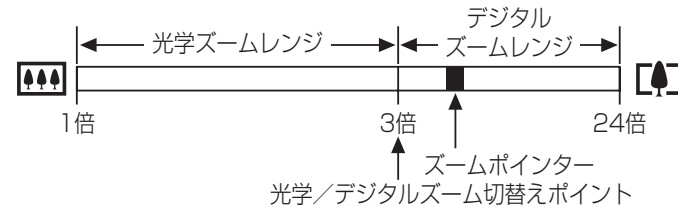
■ デジタルズームを使って撮影する

1. RECモードにし、【ズームレバー】を[🔍] (望遠)側にスライドさせて、ズームの倍率を変えます。

- 【ズームレバー】をスライドさせると、【液晶モニター】にズームバーが表示されます。この表示で現在のおおよその倍率が分かります。



2. 【ズームレバー】をスライドさせて、光学ズームが最も望遠になると(ズームポインターが光学/デジタルズーム切替えポイントにくると)、いったんズーム動作を停止します。



- ズームバーのデジタルズームレンジは、デジタルズームが“入”に設定されているときのみ表示されます(52ページ)。

3. 【ズームレバー】を[🔍] (望遠)側にスライドし直すと、ズームポインターがデジタルズームレンジに入り、デジタルズームに切り替わります。

- 【ズームレバー】を[🔍] (望遠)側にスライドさせると、ズームポインターが光学/デジタルズーム切替えポイントでいったん停止した後、光学ズームレンジに戻り、光学ズームに切り替わります。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

■デジタルズーム機能のオン／オフを切り替える

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“デジタルズーム”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定項目を選び、【SET】を押します。

入：デジタルズーム機能が働きます。

切：デジタルズーム機能は働きません。

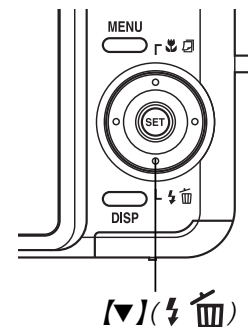
- “切”を選ぶと、ズームバーには光学ズームレンジのみが表示されます。

フラッシュを使って撮影する

撮影条件に合わせてフラッシュの発光方法を切り替えることができます。

- フラッシュの撮影範囲は下記の通りです。
広角時：約0.4m～約2.9m (ISO感度オート時)
望遠時：約0.4m～約1.6m (ISO感度オート時)
※ 光学ズームにより、撮影範囲は変化します。

1. RECモードにします。
2. 【▼】(⚡)を押して、フラッシュの発光方法を選びます。
 - 【▼】を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフラッシュの発光方法が表示され、切り替わります。





フラッシュモード表示





表示なし(フラッシュオート)

：露出(光の量や明るさ)に合わせて自動的に発光します。

- アイコンガイド(96ページ)を使用している場合は、“フラッシュオート”を選んでください。

 (発光禁止)：露出に関係なく発光しません。


 (強制発光)：露出に関係なく強制的に発光します。

 (赤目軽減)：フラッシュ撮影時に人の目が赤く写ることを軽減します。露出に合わせて自動的に発光します。

3. [シャッター]を押して撮影します。

- 重要!**
- フラッシュ撮影時、フラッシュは数回発光します。最初にプリ発光(露出情報を得るための予備発光)し、最後にメイン発光(フラッシュ撮影するための発光)することにより、最適な発光量でフラッシュ撮影が行われます。メイン発光が終わるまで、カメラは動かさないでください。
 - ISO感度が“オート”の場合は、感度が高くなるため、フラッシュ使用時にノイズが多くなります。ISO感度を下げると撮影範囲(フラッシュの光が届く範囲)が短くなりますが、ノイズは少なくなります(99ページ)。

■ 強制発光について

日中の撮影で、逆光などで被写体が暗くなるような場合は、フラッシュの発光方法を (強制発光)を選んで、フラッシュを発光させて撮影してください(日中シンクロ撮影)。フラッシュの光により、被写体を明るく撮影することができます。

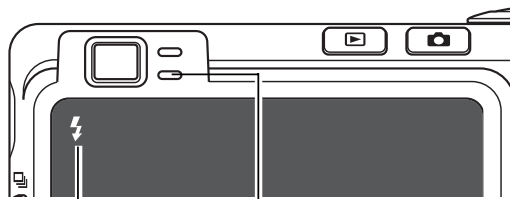
■ 赤目軽減機能について

夜や暗い室内などで人物をフラッシュ撮影したとき、目が赤く写ることがあります。これは、フラッシュ光が目の網膜に反射するために起こる現象です。赤目軽減機能を使うと、フラッシュ撮影する前に赤目用プリ発光(写す人の瞳孔を小さくするためにフラッシュが発光)することにより、人の目が赤く写ることを軽減します。


- 重要!**
- 赤目軽減機能により撮影する場合は、下記の点に注意してください。
 - － 写される人がフラッシュを注視していないと効果がありません。撮影する前にフラッシュを見るように声をかけておいてください。
 - － 被写体までの距離が遠いと、効果が現れにくい場合があります。

フラッシュの状態について

フラッシュの状態については【シャッター】を半押ししたときに、【液晶モニター】や赤の【動作確認用ランプ】で確認できます。



【液晶モニター】

- フラッシュ発光時は  が表示されます。

赤の【動作確認用ランプ】

- 赤点滅：フラッシュ充電中
- 赤点灯：フラッシュ充電完了

フラッシュの光量を変える

フラッシュの光量を変えることができます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“フラッシュ光量”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

+2：強く光る

+1

0

-1

-2：弱く光る



重要! • 被写体が遠かったり、近すぎたりする場合は、光量が変わらない場合があります。

フラッシュ撮影時の光量の不足を補う (フラッシュアシスト機能)

フラッシュの撮影範囲よりも遠い被写体を撮影したとき、撮影に必要なフラッシュ光量が得られずに、被写体が暗く写ってしまう場合があります。そのような場合、この機能を使うと、撮影した被写体の明るさを補正し、フラッシュの光がより遠くへ届いたときと似たような効果を得ることができます。



フラッシュアシスト機能
未使用



フラッシュアシスト機能
使用

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“フラッシュアシスト”を選び、【▶】を押します。

4. 【▲】【▼】で“オート”を選び、【SET】を押します。

- “切”を選ぶと、フラッシュアシスト機能は働きません。

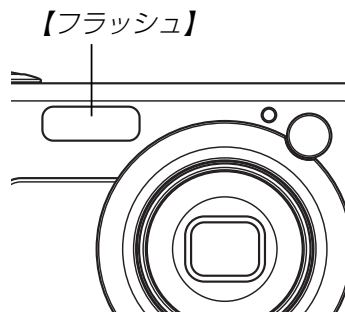
- 重要!**
- 被写体によっては、思ったような効果が得られないことがあります。
 - 下記のような操作を行ったとき、フラッシュアシスト機能を使用した撮影結果にほとんど変化が表れない場合があります。
 - フラッシュ光量を切り替えたとき(54ページ)
 - 露出補正(EVシフト)を行ったとき(66ページ)
 - ISO感度を切り替えたとき(99ページ)
 - コントラストの設定を切り替えたとき(101ページ)
 - フラッシュアシスト機能動作時、ノイズが増える場合があります。

■ フラッシュ使用時のご注意

- 【フラッシュ】が指で隠れないようにしてください。隠れてしまうとフラッシュ本来の効果が得られなくなります。
- 被写体までの距離が遠かったり、近かったりする場合は適切な効果が得られません。
- フラッシュの充電時間は、そのときの使用条件(電池の状態や温度等)により異なります。

数秒～10秒程度(フル充電の場合)

- 下記の撮影では、フラッシュは発光しません。このとき🚫(発光禁止)が表示されます。
ムービーモード、ショートムービーモード、パストムービーモード、ムービーベストショットモード
- 電池が消耗するとフラッシュの充電ができなくなることがあり、フラッシュが正常に発光せずに適正な露出が得られないことがあります。速やかに電池を充電してください。
- 暗い場所で撮影するときフラッシュを🚫(発光禁止)に設定すると、シャッター速度が遅くなるので、手ぶれを防ぐために、カメラを三脚などで固定するようにしてください。なお、このとき撮影した画像は多少ざらついた感じ(ノイズが発生した画像)になる場合があります。






- 👁️(赤目軽減)では露出に合わせて自動的に発光するため、明るい場所ではフラッシュは発光しません。
- フラッシュを使用した場合は、外光や蛍光灯など他の光源があると色味が変わることがあります。

セルフタイマーを使って撮影する

【シャッター】を押してから約10秒または約2秒後に撮影することができます。また、3枚連続でセルフタイマー撮影する(トリプルセルフタイマー)こともできます。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“撮影設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“セルフタイマー”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】でセルフタイマーの種類を選び、【SET】を押します。

	10秒 : 10秒後に撮影されます。
	2秒 : 2秒後に撮影されます。
	×3 : 10秒後に1枚、その後撮影準備完了の1秒後に1枚、さらに撮影準備完了の1秒後に1枚と、合計3枚撮影されます(トリプルセルフタイマー)。

切 : セルフタイマーは使用できません。

- 【液晶モニター】にセルフタイマーの種類が表示されます。



5. 【シャッター】を押して撮影します。

- 【AF補助光/セルフタイマーランプ】が点滅し、約10秒、または2秒後に撮影されます。
- カウントダウン中に【シャッター】を押すと、セルフタイマーを解除することができます。



- 参考**
- シャッター速度が遅いときにセルフタイマーの2秒の設定を使用すると手ぶれ防止になります。
 - トリプルセルフタイマーでは、次の撮影準備が終わると“1 sec”と表示され、約1秒後に撮影されます。撮影準備完了までの時間は、画像の“サイズ”や“画質”とメモリーカードの有無またはフラッシュの充電の有無によって異なります。
 - 下記の撮影では、セルフタイマーは使用できません。
通常連写、ショートムービーモード、パストムービーモード
 - 下記の撮影では、トリプルセルフタイマーは使用できません。
ビジネスショット、証明写真、ムービーモード、ショートムービーモード、パストムービーモード、ムービーベストショットモード

画像サイズを変更する

画像サイズとは、カメラが記録する撮影画像の大きさを画素数(pixels)で表したものです。この画素数は1枚の画像を構成する粒子のきめ細かさを示している数値で、数字が大きいほど、印刷したときにきめが細かく美しい仕上がりになります。

- この設定は静止画の撮影時のみ有効です。動画のサイズについては、82ページをご覧ください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“サイズ”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。
 - 画像サイズを選択している際に、画素数とプリントサイズが交互に表示されます。プリントサイズは、選んだ画素数に対して、プリント時に最適な用紙のサイズを示しています。


画素数(pixels)		プリントサイズ
大きい ↑ ↓	3072×2304	A3プリント
	3072×2048 (3:2)	A3プリント ※横縦比が3:2になります。
	2560×1920	A3プリント
	2048×1536	A4プリント
	1600×1200	L判プリント
小さい	640×480	Eメール ※Eメールで画像を送りたい 場合に最適です。

- 「プリントサイズ」は、あくまでも参考のサイズとお考えください(印刷解像度が200dpiの場合)。
- “3072×2048(3:2)”を選ぶと、プリント紙の横縦比3:2に合うように、画像を3:2の比率で撮影します。

画質を変更する

画質とは、画像を記録する際のデータ圧縮率を表したものです。用途に合わせて画質を変更してください。

- この設定は静止画の撮影時のみ有効です。動画の画質については、82ページをご覧ください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. 【◀】【▶】で“画質設定”タブを選びます。
3. 【▲】【▼】で“ 画質”を選び、【▶】を押します。
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

設定内容		選択時の目安
高画質 ↑ ↓ 低画質	高精細	画質を優先したいとき
	標準	通常の撮影をするとき
	エコノミー	撮影枚数を優先したいとき


- 重要!** • 撮影した画像によってファイルサイズが異なるため、実際の撮影可能枚数と画面上の表示枚数が一致しない場合があります(23、193ページ)。

撮影する(応用編)

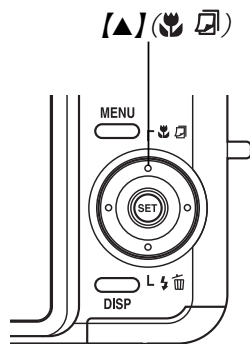
ピント合わせの方法を変える

ピント合わせの方法には、オートフォーカス、マクロ、パンフォーカス、無限遠、マニュアルフォーカスの5種類があります。これらをフォーカスモードといいます。

1. RECモードにします。

2. **[▲]**()**[▶]**を押して、ピント合わせの方法を選びます。

- **[▲]**を押すたびに【液晶モニター】に次の順でフォーカスモードが切り替わります。



フォーカスモード



→ 表示なし(オートフォーカス):

自動的にピントを合わせます。

- アイコンガイド(96ページ)を使用している場合は、**“AF オートフォーカス”**を選んでください。

🌸(マクロ<接写>):

近くのを撮影するときに使用します。

PF(パンフォーカス):

ある被写体距離にピントが合うようにフォーカスが調整されます。

- ※ 動画撮影時(ムービーモード、ショートムービーモード、パストムービーモード、ムービーベストショットモード)以外の撮影モードで、パンフォーカスに切り替えることはできません。

∞(無限遠):

遠景を撮影するときに使用します。

MF(マニュアルフォーカス):

手でピントを合わせることができます。

自動でピントを合わせる(オートフォーカス)

オートフォーカスでは自動的にピントを合わせることができます。【シャッター】を半押しすると、オートフォーカス機能が働き、自動的にピント調整を始めます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

範囲： 静止画： 約40cm～∞(無限遠)

動画： 約40cm～∞(無限遠)

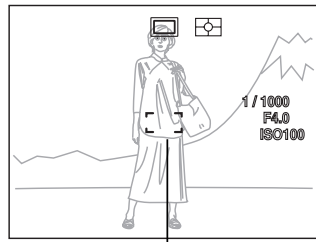
※ 光学ズームにより、範囲は変化します。

1. 【▲】(☺)を何回か押して、フォーカスモード表示を消します。

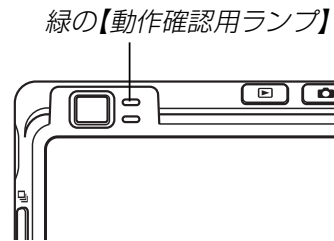
- アイコンガイド(96ページ)を使用している場合は、**AF** オートフォーカス”を選んでください。

2. ピントを合わせたい被写体を【フォーカスフレーム】の中に入れて、【シャッター】を半押しします。

- 緑の【動作確認用ランプ】と【フォーカスフレーム】の点灯のしかたによってピントの状況を知ることができます。



【フォーカスフレーム】



状況	動作確認用ランプ	フォーカスフレーム
ピント合わせ完了	緑点灯	緑点灯
ピント合わせ不可	緑点滅	赤点灯

3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

- 参考**
- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロ(63ページ)の範囲までピント調整を行います(オートマクロ)。
 - オートフォーカス撮影時に光学ズーム(50ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例：AF40cm - ∞

■ クイックシャッター機能について

クイックシャッター機能を使うと、【シャッター】半押しによるオートフォーカスが完了する前に、【シャッター】を全押しすることで、オートフォーカスを作動せずに撮影することができます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

1. RECモードで【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“クイックシャッター”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

入：クイックシャッターが機能します。

切：クイックシャッターが機能しません。

■ オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える

オートフォーカスモード、マクロモードでは、オートフォーカス(AF)の測定範囲を変更することができます。設定によって【フォーカスフレーム】の形状も変わります。

1. RECモードで【MENU】を押します。
2. “撮影設定”タブ→“AFエリア”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

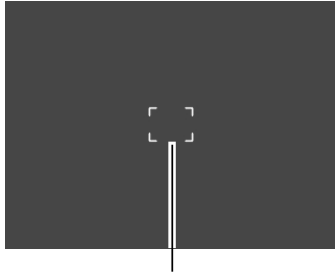
【●】 スポット : 中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(66ページ)を活用した撮影に便利です。

【田】 マルチ : 【シャッター】を半押しすると、9つの測距点の中で、距離が一番近い被写体にピントを合わせます。集合写真などに便利です。

【+】 フリー : 【▲】【▼】【◀】【▶】で【フォーカスポイント】を移動した後、【SET】を押すことにより、【フォーカスフレーム】を自由に移動させることができます。フレーミングを考えずに、自由に被写体を捕らえたいときなどに便利です。

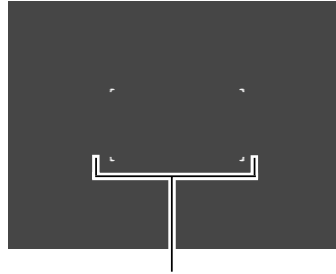
参考 • “【田】 マルチ”に設定すると、幅広い【フォーカスフレーム】が表示されます。【シャッター】を半押しすると、ピントが合った場所の【フォーカスフレーム】が表示されます。

“[.] スポット” の場合



【フォーカスフレーム】

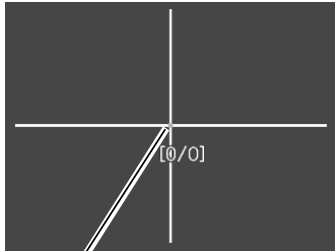
“[M] マルチ” の場合



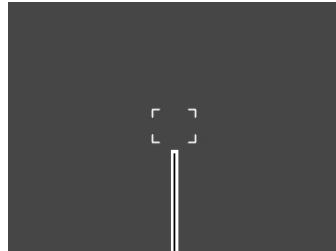
【フォーカスフレーム】

- “[+] フリー” に設定すると、最初は【液晶モニター】の中央に【フォーカスポイント】が表示されます。

“[+] フリー” の場合



【フォーカスポイント】

→
【SET】

【フォーカスフレーム】

近くを撮影する(マクロ)

近くのものにピントを合わせて撮影します。ピントが合う距離は下記の通りです。

範囲：約10cm - 50cm

※ 光学ズームにより、範囲は変化します。

1. 【▲】(📷) を何回か押して、“📷” を表示させます。

2. 【シャッター】を押して撮影します。

- ピントの合わせかた、撮影のしかたはオートフォーカスモードと同じです。

参考

- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカス(61ページ)の範囲までピント調整を行います(オートマクロ)。
- マクロ(接写)撮影時に光学ズーム(50ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例：📷10cm - 50cm

重要!

- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像に影が映し込まれることがありますので、ご注意ください。

ピントを固定して撮影する(パンフォーカス)

動画撮影時(ムービーモード、ショートムービーモード、パストムービーモード、ムービーベストショットモード)(81ページ)のみ使用できます。パンフォーカスモードでは、ある被写体距離にピントが固定されますので、オートフォーカスの動作を行わずに撮影することができます。オートフォーカスが難しい状況での撮影や、オートフォーカスの動作音が気になる静かな環境などでの撮影に便利です。

1. RECモードにして、【モードダイヤル】で動画の撮影モードを選びます(62ページ)。

- ムービーモード、ショートムービーモード、パストムービーモード、ムービーベストショットモードのいずれかを選んでください。

2. 【▲】(📷)を何回か押して、“PF”を表示させます。

3. 【シャッター】を押して撮影します。

重要! • パンフォーカスは、動画撮影時(ムービーモード、ショートムービーモード、パストムービーモード、ムービーベストショットモード)にのみ使用できます。他の撮影モードでは使用できません。

遠くを撮影する(無限遠)

無限遠では∞(無限遠)にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。

1. 【▲】(📷)を何回か押して、“∞”を表示させます。

2. 【シャッター】を押して撮影します。

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

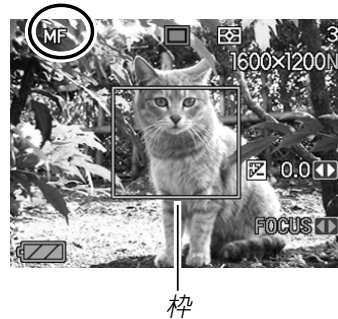
マニュアルフォーカスでは手動でピントを合わせることができます。ピントを合わせることができる範囲は下記の通りです。

光学ズーム倍率	範囲
1倍	約10cm～∞
3倍	約50cm～∞

※ 光学ズームにより、範囲は変化します。

1. 【▲】(📷)を何回か押して、“MF”を表示させます。

- 手順2で拡大表示される範囲が枠で囲まれます。



2. 【液晶モニター】で確認しながら【◀】【▶】を押してピントを合わせます。

- 【◀】：近い側にピントを合わせる
- 【▶】：遠い側にピントを合わせる

- ピントを合わせている間は表示が拡大表示になり、ピントの確認がしやすくなります。



マニュアルフォーカスの位置

3. 【シャッター】を押して撮影します。

- 重要!** マニュアルフォーカス時の【◀】【▶】の働きは、「左右キーに機能を割り当てる(キーカスタマイズ)」(95ページ)で設定された機能でなく、ピント合わせの動作が優先されます。

- 参考** マニュアルフォーカス撮影時に光学ズーム(50ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。

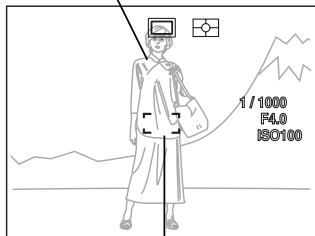
例：MF 10cm - ∞

フォーカスロック

【フォーカスフレーム】に入らない被写体にピントを合わせる場合は、フォーカスロックを使います。フォーカスロックはオートフォーカスモード、マクロモード(📷)で使用できます。

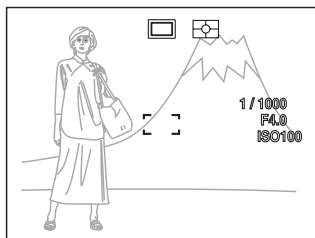
1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、【シャッター】を半押しします。

ピントを合わせたい被写体



【フォーカスフレーム】

2. 【シャッター】を半押ししたまま、撮影したい構図を決めます。



3. 【シャッター】を全押しして撮影します。

参考 • フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

露出を補正する(EVシフト)

本機は撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を下記の値に手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

露出補正值：-2.0EV~+2.0EV

補正単位：1/3EV

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “画質設定”タブ→“EVシフト”と選び、【▶】を押します。



露出補正表示

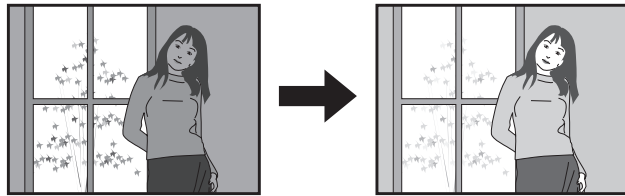
3. 【▲】【▼】で露出補正値を選び、【SET】を押します。

- これで露出補正値が設定されました。

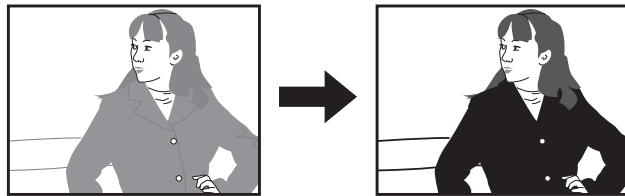


露出補正表示

【▲】：＋方向に補正されます。白い物の撮影や逆光での撮影のときに押します。



【▼】：－方向に補正されます。黒い物の撮影や晴天の野外などのときに押します。



- 露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

重要! • 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。

- 参考**
- 測光方式をマルチパターン測光(画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます)に設定しているときに露出補正を行うと、測光方式が自動的に中央重点測光(中央部を重点的に測光します)に切り替わります。露出補正値を“0.0”に戻すとマルチパターン測光に戻ります(100ページ)。
 - キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで露出値を補正することができます(95ページ)。ヒストグラム表示(93ページ)を確認しながらの撮影に便利です。

ホワイトバランスを変える

被写体は、太陽光や電球の光など光源の波長によって色味が異なっています。ホワイトバランスとは、被写体を自然な色合いで撮影できるように白を基準に色味を調整することです。

1. RECモードにして【MENU】を押します。

2. “画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押します。



3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押します。

オート : 自動的にホワイトバランスを調整します。

太陽光 : 晴天時の野外での撮影用

曇天 : 薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用

日陰 : ビルの陰など極端に色温度が高いところでの撮影用

蛍光灯1 : 白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用

蛍光灯2 : 昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用

電球 : 電球の雰囲気消した撮影用

マニュアル : その場の光源に合わせて手動で設定します。
詳しくは「マニュアルホワイトバランスを設定する」(69ページ)を参照してください。

- 参考
- ホワイトバランスの“オート”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。このような場合は、太陽光、曇天など光源を指定する固定モードをご使用ください。
 - キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでホワイトバランスを変更することができます(95ページ)。
 - キーカスタマイズ機能で“オート”を選ぶときにアイコンガイド(96ページ)を使用している場合は、“AWBオートWB”を選んでください。

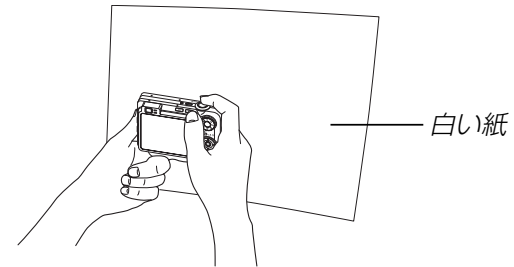
マニュアルホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの“オート”や太陽光、曇天など光源を指定する固定モードでは、複数の光源下など難しい環境において調整できる範囲に限界があります。マニュアルホワイトバランスを使うと、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスの設定のために、白い紙を用意しておいてください。

1. RECモードにして【MENU】を押します。
2. “画質設定”タブ→“ホワイトバランス”と選び、【▶】を押します。
3. 【▲】【▼】で“マニュアル”を選びます。
 - 【液晶モニター】には、前回調整したバランスで被写体が表示されます。この設定で使う場合は、操作5に進んでください。



4. 画面全体に白い紙などを写した状態で【シャッター】を押します。



- “完了”と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。

5. 【SET】を押します。

- ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。

- 参考**
- 一度設定したマニュアルホワイトバランスは、新たにマニュアルホワイトバランスを設定し直さない限り、電源を入/切しても保持されたままとなります。

シャッター速度／絞り値を設定して撮影する(マニュアル露出モード)

Mモード(マニュアル露出モード)に設定すると、シャッター速度と絞り値を以下の範囲で設定して撮影することができます。

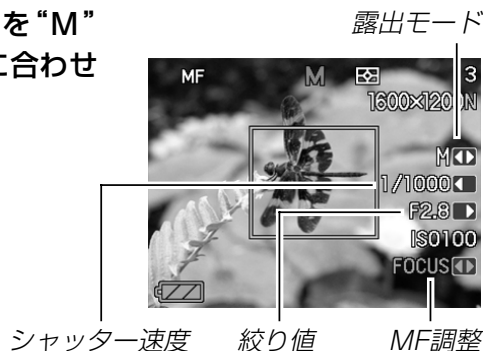
• 設定できるシャッター速度

シャッター	遅い ← → 速い
速度	60秒 ← → 1/1600秒
動き	流れる ← → 止まる

• 設定できる絞り

絞り値	開ける ← → 絞り込む
(W端の場合)	F2.8・F4.0
ピント	浅い ← → 深い

1. 【モードダイヤル】を“M”(マニュアル露出)に合わせます。



2. 【SET】で“シャッター速度”(25ページ)を選び、【◀】【▶】でシャッター速度を設定します。

3. 【SET】で“絞り値”(25ページ)を選び、【◀】【▶】で絞り値を設定します。

- マニュアルフォーカス時は、【SET】で“FOCUS”(MF調整)(25ページ)を選び、【◀】【▶】でピントを合わせることができます(65ページ)。

4. 【シャッター】を半押しします。

- カメラがピントを合わせます。
- 露出がオーバーまたはアンダー時には、【液晶モニター】に絞り値とシャッター速度がオレンジ色で表示されます。

5. 【シャッター】を全押しして撮影します。

参考 • Mモード(マニュアル露出)設定時、次のような撮影ができます。

- 【SET】で“露出モード”(25ページ)を選び、【◀】【▶】で“S”に設定すると、シャッター速度に合わせて絞り値をカメラが自動的に設定し、撮影します(シャッター速度優先AE)。
- 【SET】で“露出モード”(25ページ)を選び、【◀】【▶】で“A”に設定すると、絞り値に合わせてシャッター速度をカメラが自動的に設定し、撮影します(絞り優先AE)。

- “露出モード”を“S”または“A”に設定時は、【SET】で“EVシフト”(25ページ)を選び、【◀】【▶】で露出補正値を設定することができます(66ページ)。

- 重要!**
- 被写体が暗すぎたり、明るすぎるときは、適正な明るさで撮影できない場合があります。そのときは、Mモード(マニュアル露出)で絞り値またはシャッター速度を適正な値に変更してください。
 - CCDの特性上、シャッター速度が遅くなると、撮影した画像にノイズが発生します。そのため、シャッター速度が1/8秒より遅くなると、自動的にノイズ低減処理を行います。ただし、シャッター速度が遅くなるほど、ノイズが目立って発生するようになります。また、このノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
 - シャッター速度を1/8秒より遅くした場合は、【液晶モニター】で見える明るさと実際に撮影された画像の明るさが異なります。

連続して撮影する(連写モード)


【シャッター】を押すたびに1枚だけ撮影する1枚撮影モードと異なり、【シャッター】を押し続けている間、連続撮影ができます。本機では、次の3つの連写ができます。

- 通常連写モード
【シャッター】を押し続けている間、連続撮影することができます。
- ズーム連写モード
【シャッター】を1回押して、【液晶モニター】に表示された画像と被写体の一部を拡大した画像を同時に記録することができます。
- マルチ連写モード
【シャッター】を1回押して、短時間で25コマを連続撮影し、1枚の画像にまとめることができます。

連続して撮影する(通常連写)

【シャッター】を押し続けている間、メモリーの空き容量いっぱいまで連続撮影ができます。

- 撮影速度：設定されている画像サイズや画質によって変わります。
- 撮影枚数：そのとき撮影できる最大の枚数

1. RECモードにして【】を押します。





2. 【▲】【▼】で“”を選び、【SET】を押します。

- 【液晶モニター】に“”が表示されます。




3. 【シャッター】を押して撮影します。

- 【シャッター】を押している間、連続撮影します。
【シャッター】から指を離すと、撮影は終了します。

- 参考** • 【】を押し続けた状態で【▲】【▼】により連写モードを選んだ後、【】から指を離しても、連写モードを設定することができます。

被写体の一部を拡大した画像を同時に記録する(ズーム連写)

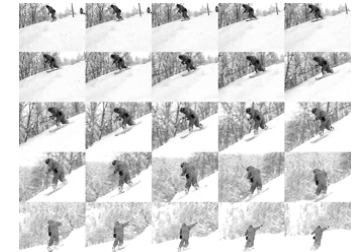
1回の撮影で、【液晶モニター】に表示された画像と被写体の一部を約2倍に拡大した画像を、同時に記録することができます。




1. RECモードにして【】を押します。
2. 【▲】【▼】で“”を選び、【SET】を押します。
 - 【液晶モニター】に“”が表示され、拡大したい場所を指定するための枠が画面中央に表示されます。
3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で拡大して記録したい部分を枠で囲み、【SET】を押します。
4. 【シャッター】を1回押して撮影します。
 - 【液晶モニター】に表示された画像と枠で囲んだ部分を約2倍に拡大した画像の2枚の画像が記録されます。

- 重要!**
- ズーム連写では、撮影する際に【シャッター】を押し続ける必要はありません。
 - 画像サイズの設定が3072×2048(3:2)pixels、640×480pixelsの場合、ズーム連写はできません。
 - 拡大された画像は、撮影時に設定された画像サイズより小さい画像サイズで記録します。
例：画像サイズを3072×2304pixelsに設定してズーム連写した場合、拡大された画像のサイズは1600×1200pixelsとなります。
 - ピント合わせの方法をオートフォーカスに設定した場合、ズーム連写時の測定範囲(AFエリア)は自動的に拡大場所を指定するための枠の中心(スポット)に切り替わります(61、62ページ)。

25コマを1枚の画像にまとめる(マルチ連写)

短時間で25コマを連続撮影し、1枚の画像にまとめることができます。



1. RECモードにして【】を押します。
2. 【▲】【▼】で“”を選び、【SET】を押します。
 - 【液晶モニター】に“”が表示されます。
3. 【シャッター】を1回押して撮影します。
 - 25コマの撮影が終了すると、1枚の画像に合成してメモリーに保存されます。

- 重要!**
- マルチ連写では、撮影する際に【シャッター】を押し続ける必要はありません。
 - 保存される画像のサイズは1600×1200pixelsとなります。

連写時のご注意

- 連写では、フラッシュは🚫(発光禁止)となります。
- 通常連写では、セルフタイマーは使用できません。また、ズーム連写/マルチ連写では、トリプルセルフタイマーは使用できません(57ページ)。
- マルチ連写では、シャッター速度を1/15秒より遅くすることはできません。
- 連写では、露出/フォーカス位置は1枚目を撮影した際に固定されますので、2枚目以降は1枚目と同じ露出/フォーカス位置で撮影されます。
- 連写中は、撮影が終了するまで、カメラを動かさないように注意してください。
- 連写中にメモリーの残り容量が足りなくなった場合、連写は途中で終了します。
- シャッター速度を遅く設定していると、連写の撮影間隔は長くなります。

さまざまなシーンを選んで撮影する(ベストショットモード)

あらかじめ収録されているシーンの中から撮影したいシーンを選ぶと、自動的にそのシーンに最適な設定になります。

■シーンのサンプル画像例

- 人物を写す



- 風景を写す



- 夜景を写す

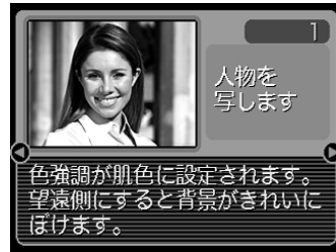


- 人物と夜景を写す



1. RECモードにして【モードダイヤル】を“BS”に合わせ、【SET】を押します。

- ベストショットモードに設定すると、シーンのサンプル画像が表示されます。
- 設定のしかたは、「撮影モードを設定する」(42ページ)をご覧ください。



2. 【◀】【▶】で撮影したいシーンを選び、【SET】を押します。

- 再度【SET】を押すと、別のシーンを選び直すことができます。また、現在選ばれているシーンを、確認することもできます。

3. 【シャッター】を押して撮影します。


- 重要!**
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。イメージ画像です。
 - 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
 - 選んだシーンの各種設定内容は変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。変更した内容を、再度使用したい場合、カスタム登録をご利用ください。
 - 夜景や花火のシーンなどシャッター速度が遅くなる撮影では、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行っています。このノイズ低減処理のために、撮影が終了するまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作を行わないでください。
 - 夜景や花火のシーンなどシャッター速度が遅くなる撮影では、手ぶれを防ぐために、三脚の使用をおすすめします。

- 参考**
- ベストショットモードで電源を入れたとき、約2秒間、操作ガイドと現在選ばれているシーンのサンプル画像が表示されます。

1つの画面に12個のシーンのサンプル画像を表示する


ベストショットモードで内蔵しているシーンのサンプル画像を、12個ごとに同時に一覧表示させて、撮影したいシーンを選ぶことができます。

1. RECモードにして【モードダイヤル】を“BS”に合わせ、【SET】を押します。

2. 【ズームレバー】を“”側にスライドさせます。

- 12個の画像が表示され、最後に表示されていたサンプル画像に枠が付いた状態で表示されます。



- サンプル画像は左上から順に画像が表示されます。
- 【◀】【▶】を押して、枠が画面の左端または右端まで行くと、次の12個のサンプル画像を表示します。
- 【ズームレバー】を“”側にスライドさせると、12画面表示から枠が付いたサンプル画像のシーンに戻ります。

3. 【▲】【▼】【◀】【▶】で撮影したいシーンを選び、【SET】を押します。

4. 【シャッター】を押して撮影します。

撮影したいシーンを登録する(カスタム登録)

今まで撮影した画像の設定内容をベストショットモードに登録して、同じ設定で撮影することができます。

1. RECモードにして【モードダイヤル】を“BS”に合わせ、【SET】を押します。

- ベストショットモードに設定すると、シーンのサンプル画像が表示されます。

2. 【◀】【▶】を押して、“新規登録”を表示させます。



3. 【SET】を押します。

4. 【◀】【▶】を押して、登録したい画像を選びます。



5. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押します。

- 登録が完了し、撮影できる状態になります。以降、75ページと同じ操作により、この設定を選んで撮影することができます。

重要! • 本機内蔵のシーンのあとに“マイベストショット”(カスタム登録したシーン)の順番でシーンが登録されます。
 • 内蔵メモリーをフォーマット(140ページ)すると、カスタム登録したベストショットモードのシーンファイルは消えてしまいます。

参考 • 登録される設定内容は下記の通りです。
 フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュモード、ISO感度、測光方式、フラッシュ光量、フラッシュアシスト、シャープネス、彩度、コントラスト

- 登録できるのは本機で撮影された画像だけです。
- 登録可能件数は最大999件です。
- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダに保存されます。ファイル名は、「UZ750nnn.JPE (n=0~9)」となります。

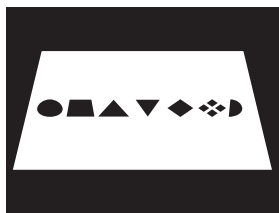
登録したシーンを削除する

自分で登録(カスタム登録)したベストショットを削除することができます。

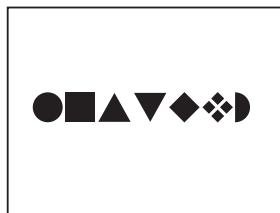
1. ベストショットモード中に【SET】を押します。
2. 【◀】【▶】で削除したいシーンを選びます。
3. 【▼】(🗑️)を押します。
4. 【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押します。
5. 【MENU】を押します。

名刺や書類などを撮影する (ビジネスショット機能)

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットでは、斜めから撮影した画像を自動的に正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。



補正処理前



補正処理後

■ ビジネスショット用シーン

- 名刺や書類を写します
- ホワイトボードなどを写します



- 重要!**
- 被写体が【液晶モニター】に収まるような構図で撮影してください。被写体が【液晶モニター】からはみ出すと認識できません。
 - 被写体と背景が同色の場合、認識できません。被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。
 - ビジネスショット機能で撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。

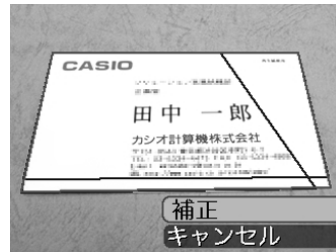
- 参考**
- 名刺や書類の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」(長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態)が生じます。本機は台形歪みが生じた画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

ビジネスショット機能で撮影する

1. RECモードにして【モードダイヤル】を“BS”に合わせ、【SET】を押します。
2. 【◀】【▶】でビジネスショット用のシーンを選び、【SET】を押します。

3. 【シャッター】を押して撮影します。

- 補正確認画面が表示されます。ただし、補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます(191ページ)。その後、撮影した元画像を保存します。



4. 【◀】【▶】で補正候補を選びます。

5. 【▲】【▼】で“補正”を選び、【SET】を押します。

- “キャンセル”を選ぶと、補正せずに撮影した元画像を保存します。



- 重要!** • ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても1600×1200pixelsの画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が1600×1200pixelsよりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。